

職能開発科 「フォークリフト体験実習」



授業実践ギャラリー



今日は株式会社ライフサポート・エガワ様の御協力を得て、職能開発科2年生の流通チームを対象に「フォークリフト体験実習」を開いていただきました。講師の中には、2年前に本校を卒業した先輩の姿がありました。彼は卒業後、フォークリフトのオペレーターとして採用された後、さらに技術を磨いて、操縦できる車両の幅も広がったそうです。講義では実際の職場で稼働するフォークリフトの様子や仕事内容について映像を交えてご説明いただきました。

5ナンバーワンボックスよりも車重のあるフォークリフト。過去の事故例では「そこにあるものに気づかなかった」というのがほとんどだそうです。一見死角などなさそうなフォークリフトですが、実際には見えない、見えづらい角度があります。そこに立ってもらいました。



死角を維持したまま、お互いに近づいてみました。ゆっくり前進しても、直前になるまで人に気づかないことがあると学習しました。周囲に視線をめぐらして、安全を確保することがなによりも大切です。

次は「荷崩れ体験」。回し積みをせず、漫然と縦に積んだ状態で死角から人が出てきて急ブレーキをかけたらどうなるか。



こんなことになったら、商品は全部ダメになって、請け負った会社にも多大な損害を与えます。絶対にあってはならないことを、体験させてもらえました。





続いてはフォークリフト2台分程度の幅のコースでスラローム走行。実際にはこんな環境で仕事をすることはありませんが、常に前後左右、安全を確認してオペレートすることを学ぶためのコースです。左右の壁、真ん中のペットボトルなど・・・「これは詰んだな」という状況もありましたが、インストラクターの支援で切り抜けました。



ペットボトルをクリアしたと思ったら、フォークの先端が壁スレスレ。
向きを変えたら今度は車体後部がスレスレ。大切なのは1か所だけではなく全体
を「くまなく見る」ことだと痛感しました。

最後は複数の納入業者様のパレットがランダムに積み上がっているものを、納入業者様ごとに分類して保管する作業を教わりました。



技術はもちろん、なにより大切なのは事故を起こさないこと。そのためには慢心することなく、常に周囲全体を見渡しながらか、確実に作業することが大切だと学びました。
ライフサポート・エガワ様、本当にありがとうございました。